

トルコギキョウの作型適応処理（秋出荷作型）は 15°Cでも可能

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

1 部門名

花き－トルコギキョウ－生育調整

2 担当者名

鈴木洋平、北村蒼史、福田秀之、熊坂京、山口繁雄

3 要旨

トルコギキョウの秋出荷作型において、本葉2対葉程度まで育苗した苗を作型適応処理(20°C、20時間明期条件、3週間)することで、切り花長が増加し切り花品質が向上するが、20°C設定が可能な育苗装置は一般的に普及していないため、処理条件の拡大が必要であった。

そこで、一般的に利用されている農業用保冷库等で設定可能な15°Cでの作型適応処理の効果を調査し、20°C処理と同等以上の切り花品質向上効果が得られることを明らかにした。

- (1) 種子冷蔵後、本葉2対程度に育苗した苗を15°Cに設定した保冷库に入れ、20時間明期条件で3週間処理する。照明は、昼白色蛍光灯型LEDを苗上約30cmから照射し、給水は液肥(N濃度50ppm)の底面給水により管理した(図1)。
- (2) 7月中旬～8月上旬に定植する作型において、中生、中晩生品種を15°Cで作型適応処理することで、20°C処理と同等以上に切り花長が増加した(図2)。
- (3) 15°C処理では、定植直後に葉焼けが生じる場合があるため、屋外の気温に応じて順化等を行う。また、開花時期が20°C処理と比較して数日程度遅れる傾向がある(データ省略)。



図1 作型適応処理の様子

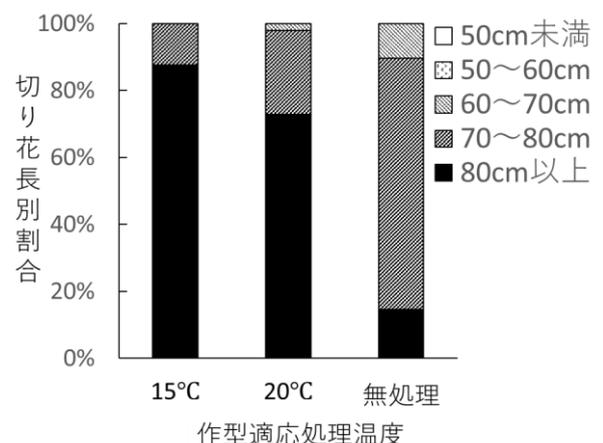


図2 作型適応処理温度による切り花長別割合の違い(2025年7月中旬定植「ハピネスホワイト」)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 花きの安定生産・計画出荷技術の実証〔農林水産分野の先端技術展開事業〕
「社会実装促進業務」(JPFR25060110)

5 主な参考文献・資料

- (1) トルコギキョウ作型適応苗の育成方法 農業総合センター p.2-13, 2021.